

表さらに前進する菊川市の可能性 代 市民ネット 質問者・倉部 光世



新型コロナウイルス禍で先の見通しが危ぶまれる中、財政運営については新しい視点が必要となる。成長を根底とした積み上げの再評価、無駄をなくす知恵を使った事業の統廃合、スピード感も要求され、いかにお金をかけずに成果を上げることが市長の手腕に期待して質問する。

◎ ミスやリスクチェックを全体として行う内部統制体制の導入。重要課題のプロジェクト化、縦割りの見直し、より専門性が必要とされるDX(※1)や危機管理等に外部の専門家登用など若手を育て職員意識を向上させる体制のあり方は。

◎ 専門性・多様性が求められ業務が拡大する中、自らの創意工夫による効率的な行政サービスを提供していく必要がある。できないのではなくどうしたらできるかを職員が常に意識することで今までない発想が生まれ意識向上につながる。専門職、多様な人材の活用など体制整備に取り組んでいく。

◎ まちの課題を市民が自分事として考える機会を整える対話によるまちづくりの実現は。

◎ ワークショップ(※2)をより充実させ市民が参加しやすく気軽に意見を出し合える場をこれまでに以上に増やし市民と行政との協働によるまちづくりを進める。

◎ 行政組織や審議会、地区自治会、防災組織等への女性の登用や多様性について。

◎ 誰もが性別を意識することなく活躍できる社会、女性の参画促進に向け、市が率先して審議会や管理職等へ女性を登用し、性別による固定的な役割分担意識の解消に向け啓発に取り組む。

◎ マイ・タイムラインの推進や障がい者等の支援、小中学校や自治会が連携し実際に役立つ避難所運営を中心とした避難訓練など実効性のある防災・減災対策は。

◎ 個別計画の更新とあわせマイ・タイムラインを作成することで相乗効果を生み、また平常時から地域と学校が連携して防災訓練計画や防災体制整備など協議し、総合防災訓練の中でも実効性ある避難所運営訓練を実施する。

◎ 文化・菊川市の歴史への思い、文化の醸成は。

◎ 市の文化や歴史に自ら触れること、学ぶことで感動を生み、生活に潤いを与えることで郷土愛の醸成につながる。文化振興計画の事業見直しや情報発信の強化を図り、貴重な施設でもある文化会館アエルを活用し、市民の芸術文化や歴史に対する重要度及び満足度を高めていく。

◎ 自治会やコミュニティ協議会、縦と横の連携を重ね合わせた学びの庭構想など、地域共生社会に向けた取り組みは。

◎ 市民と行政の協働によるまちづくりをさらに進めるため地域の負担軽減は欠かせない。行政から地域に依頼してきた委員選出や役割の整理、事務の見直しに取り組む。

◎ 学びの庭構想による学舎運営協議会は地域全体で子どもたちを育む体制づくりを進めていく。

◎ SDGsへの取り組み、環境問題への取り組みは。

◎ エコアクション21認証取得施設の拡大を進めており来年度には全ての公共施設で導入が完了する。ゼロカーボンシティ(※3)宣言に向け具体的な取り組みを進めていく。



文化会館アエル

※1「DX(デジタルトランスフォーメーション)」 進化したIT技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革させるという概念
 ※2「ワークショップ」 地域にかかわるさまざまな立場の人が自ら参加して、地域社会の課題を解決するための改善計画を立てたり、進めていく共同作業。住民参加型の活動形態の一つ
 ※3「ゼロカーボンシティ」 2050年までにCO₂(二酸化炭素)の排出量を実質ゼロにすることを目指す旨(脱炭素化)を、市長もしくは地方公共団体から公表された市町村